

# 愛と力の筏

名古屋市南区大同町にあった大同工業高校  
 (現在の大同高等学校)の校舎は、当時完成し  
 たばかりの4階建てで、周辺には珍しい高い建  
 物でした。そのため台風当日の夕方から近隣住  
 民が続々と避難場所を求めてやってきました。

濁流によって1階は完全に水没しましたが、  
 校舎の3・4階を開放して、一時は2500名以  
 上の避難者を収容しました。その後、校舎の2  
 階を臨時の救援本部として、校長の指揮で生  
 徒と職員による救助隊が結成されました。校  
 舎周辺に流れ着いた材木で筏を作り「大同工  
 高生徒隊」と書かれた旗を立てて、全校生徒  
 は率先して人命救助や傷病者救護、また人員

物資の輸送に励んだのです。さらに生徒たち  
 は遺体の収容や汚物処理まで、一丸となって  
 力を合わせて献身的な活動を続けました。

その雄々しく危難に立ち向かい復興に尽力  
 した生徒たちの、まさに純粋な愛と力の姿に  
 多くの人々が感激しました。この若者たちの  
 勇気とボランティア精神を後世に残すために  
 「愛と力の筏」の銅像が作られました。災害は  
 時を経るに従って人々の記憶から忘れ去られ  
 ますが、我々はこの銅像を仰ぎ見るたびに、純  
 真な学徒たちが率先して若い力を結集した奉  
 仕の姿を忘れることなく、長く伝えるとともに  
 称えたいものです。

